

ハイブリッド

水郡線営業所分会



JTSU-E 水郡線営業所分会

2025年1月21日 No. 13

発行責任者: 長嶋 竜一



輸送サービス労組水戸地本
ホームページはこちら

JTSU-E JOURNAL MITO

新年号はこちら

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です



“地域貢献・地域活性化”は単なるポーズ!?会社の意に沿わない活性化は排除か!?

自治体の広報誌「水郡線 90周年特集」記事に JR 東日本会社が直前になって“掲載 NG”ちゃぶ台返し!!

自治体広報担当へ電話1本「ポール de ウォークの写真が組合活動にあたるから掲載してはならない」
しまいには「組合員とはどのような関係か」「どのような経緯があったのか」と失礼極まりない逆質問!!

福島県塙町の広報「はなわ」2024年12月号の9ページにおいて引き延ばされた写真がありますが、そこには本来、長嶋さんの写真やインタビュー記事が掲載されるはずでした。

分会として赤字ローカル線「36線区72区間」問題に対して、ポール de ウォークを通じて沿線各所のさまざまな方々とかかわりをつくってきました。この取り組みを通じてかかわりをもった福島県塙町の広報の「水郡線90周年特集」に、長嶋さんの写真やインタビュー記事を掲載し“水郡線の魅力”を発信したいとの要請があり、現場長も同意した上で、職場で現場長同席のもとインタビューや写真撮影が行われました。

そして下刷りもできてまもなく発行、という段階で突如、JR 東日本本社広報により「記事を掲載してはならない」と判断され、電話1本で内容の変更を余儀なくされた、というのが今回の事象です。

この広報誌、是非御覧下さい。塙町の広報担当の方の「水郡線愛」に溢れた記事です。ここまで魂をこめて作り上げたものを電話1本で変更、そんなことは社会的に通用するはずがありません。



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

JR 東日本の常識は社会の非常識!!
傲慢・強引な経営姿勢を許さない!!
“おかしいことはおかしい!!”
私たち輸送サービス労組とともに
当たり前の声をあげよう!!

つちうん 2025年1月20日発行 第18号
土浦運輸区分会情報 発行責任者: 情宣部

J R の常識は世間に通じるのか?

水郡線 広報誌問題	①	水郡線沿線を活性化イベント「ポール de ウォーク」水郡線営業所分会(組合)で企画。	詳細はこちらの記事から JTSU-E JOURNAL MITO 新年号 (2025.1.1 発行)
	②	大子町、矢祭町、塙町の皆様と連携し、町の広報誌で参加者の呼びかけを募る。	
	③	塙町の広報誌で「水郡線90周年特集」水郡線営業所分会のインタビュー記事に掲載決定。	
	④	塙町の要請を受け、職場の現場長も同意。職場で組合員のインタビューや写真撮影。	
	⑤	記事も完成し掲載直前となった状況の中、会社から「記事は掲載してはならない」	
	⑥	町への断りは電話一本のみ。掲載できない理由は「ポール de ウォークの写真が組合活動だから」	
	⑦	町の担当者に「組合員とはどのような関係か?」「どのような経緯があったのか?」	
	⑧	J R 東日本の信用失墜 ← NEW	

我々の感覚が変なのか?…組合員以外から声を集めてみました。

言っていること(地域密着など)とやっていることが違いますね。	いっそのこと「水郡線は廃止したいのです」ってハッキリ言った方が潔い。	紙面の全面廃止でなく、組合の名だけ消すとか他に手はあったのでは?	沿線活性化は会社でもやっていたはず…。担当者の気持ちを考えて…
直前で取り消すなら、最初から取材なんかさせな。	廃線させないための活動にそう出るとは…	世間から見たら、組合も会社もなく「JR 東日本」だ。	やっている事はお互いに Win-Win のはず…
そもそも、何がいけないんですか? 良い事ですよ。	水郡線を廃止したいの?	世間的に、組合行事は取り下げ理由にならない。	組合を潰すより、地域との連携が優先順位が上では?
印刷会社も含め、誰のための発行中止? 皆がダメージ	誰のための発行中止? 誰も得が無い	社会的信用失墜の極み。どうやって信頼を取り戻す?	良い事やっているのに、組合かどうかなんて関係ない
会社の外から見たら不審に思われますよね	もったいないですね 最後まで全てが台無しだ。	関係各市町村も、もう相手にしてくれないのでは?	会社のどの部署が対応した? 理解不能
信頼回復は無理でしょうか?	関わってきた人に失礼だ。	関係回復は難しいか?	支社と現場の連携不足。

会社として検討を重ねた上の判断は、組合員以外からの声でも1つも賛同を得られませんでした。

会社の判断は、組合員の常識とも、未加入とも合わず。
各町との信頼関係をどう再構築するのか?
区報問題と同様に「皆で考える事が大切」に留めるか?

不屈
~ You are not alone. ~
2025/1/20 No. 09
発行責任者 小林聡士

やっぱりJR東日本の常識は非常識!?

町の広報誌に掲載する写真が「組合活動にあたる」掲載直前に本社が拒否!!

私たち輸送サービス労組は、労働組合として「組合員の労働条件・雇用を守る」という当たり前の活動を組織内外を問わず広範につくり出しています。特に、会社が公表している赤字ローカル線「36線区72区間」問題では、その地域在住の方々や自治体と共に行動し、地域貢献や地域活性化を通じて「赤字路線の存続」を目指しています。水戸地本管内では現在、水郡線の存続を目指し水郡線営業所分会が中心となり、特に塙町の自治体と共同行動を行っています。(詳細は「JTSU-E MITO 新年号参照」)このような取り組みを通じて、町の広報誌の「水郡線90周年特集」に組合員のインタビューや写真を掲載し「水郡線の魅力を発信する」ことで進めていました。この塙町からの要請には「現場長も同意」しており、勤務時間内外問わず現場として賛同していたようです。

しかし…突然本社から「記事は掲載してはならない」と、「ちゃぶ台を返され」、拳句に塙町には「電話一本で「ポール de ウォークの写真が組合活動にあたる」「組合員とはどのような関係なのか」「どのような経緯があったのか」と逆質問と、「失礼極まりない対応」をしたそうです!

みなさん! どう思いますか!?

私たちは、このような「異常な会社の経営姿勢」を糾し、当たり前の組合活動を堂々と組織内外で進めていきます!

水郡線営業所分会と共に闘うぞ!

**JR 東日本会社の異常な経営姿勢に
組合員だけでなく多くの未加入者から
怒りや疑問の声が寄せられる!!**